『知恵と努力』で実現する公共図書館

令和５年度の県図書館協会の活動を振り返り一言述べさせて頂きます。

近年，知識基盤社会の進展，働き方改革，リスキリング，AI の社会実装，図書館予算の削減など，公共図書館を取り巻く環境は大きく変化しています。

中でも，ChatGPT に象徴されるように，生成 AI の社会実装が急速に進む事態を目の当たりにした衝撃は大きく，人々の生活や社会活動と公共図書館のあり方に一石を投じるものでした。

そのような中，新たに会長に就任した東條広光県立図書館長を中心に，多くの事業に取り組むことができたことをうれしく思います。以下に主な取組を紹介します。

公立図書館（室）長及び業務担当者会（10/2）は，姶良伊佐支部の御尽力のもと，都城市立図書館館長の井上康志氏による講演を含めて有意義な開催となりました。

また，全国図書館大会（岩手県）と先進地視察研修（沖縄県）には，それぞれ垂水市立図書館から１名，南九州市立川辺図書室から１名を派遣することができました。

県図書館大会（11/15　主催：県教育委員会，共催：県図書館協会，県学校図書館協議会）は，「新しい時代の図書館」をテーマにして２年目の開催となりました。分科会では，県内公立図書館の職員たちによる，創意と工夫に溢れた取組の事例報告と活発な意見交換がなされ，新たな意欲を掻き立てる良い機会になりました。講演では大正大学教授　稲井達也氏が，「AI 社会，ポスト・コロナ社会に生きる図書館の役割」をテーマに，課題と今後の見通しについて語られ，時宜に叶った内容となりました。

以上のように，県図書館協会では様々な機会を設け，活動基盤の強化並びに事業の拡大深化を図ってきました。

図書館予算は厳しいものがありますが，これからも，各図書館における『知恵と努力』を全県的に共有し，知識活用環境の向上に努めてまいります。

最後になりましたが，県民の皆様による図書館利用の拡大と県内各館の益々の御発展並びに職員の皆さまの御健勝を祈念いたします。

令和６年３月

鹿児島県図書館協議会副会長　井上佳朗（鹿児島市立図書館長）